

## 会 議 録 (要旨)

会 議 の 名 称	令和5年度 第3回 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会
開 催 日 時	令和5年9月27日(水曜日) 午前10時00分から午後12時00分
開 催 場 所	小平市役所 504 会議室
出 席 者	委員13名(うち公募委員6名) 欠席1名 傍聴者なし
会 議 資 料	◆資料1 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会委員名簿 ◆資料2 第2回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会議事録 ◆資料3 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン骨子(案) ◆資料4 施策とアクションプラン50の振り返り
説 明 事 項	1. 第2回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会要旨について 2. 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン骨子(案)について 3. アクションプラン50の振り返りについて 4. 事務連絡

● 会議事項

1. 第2回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会要旨について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「第2回小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会 議事録」【資料2】

2. 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン骨子（案）について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「小平市こだいら観光まちづくり振興プラン骨子（案）」【資料3】
委員長	・新しく展開しているものについて、観光まちづくりに向けた課題というのは、今まで10年間やってきて、新たに想定されたものと考えてよいのか。基本理念と方針の中で、今回新しい部分を説明していただきたい。
事務局	・アクションプラン50を取り組んだ結果、順調に進んでいる部分と、進まなかった部分が出てきた。進んだ部分はまちの強みとして、進まなかった部分は課題と捉えている。課題については新しいアクションプランに新たな視点などを追加していくことで、解決していけたらと考えている。
委員長	・骨子案の名称について、「小平市こだいら観光まちづくり振興プラン」となっている。以前は「小平市観光まちづくり振興プラン」であったが、名称について意見があればお伺いしたい。
委 員	・小平市こだいらと重複しているのが、引っかかるのと、前回の計画は「小平市観光まちづくり振興プラン」で、その続編になることを踏まえると、「第2次」「第2期」をつけて「小平市観光まちづくり振興プラン」がいいのではないかと考える。
委 員	・いつ新しくなったのかや、期間がわからないので、「2023」と表題のどこかに入れたらどうか。和暦の方がいいのか。
事務局	・海外に文章を出すことも増えてきたので、西暦も同列表記してよいことに数年前からなっている。それ以前は元号のみだった。例えば、表記を令和5年度小平市観光まちづくり振興プランとすると、令和5年度だけの振興プランになってしまう。表紙の下の方に令和6年度～令和9年度と表記する形でどうか。

## 2. 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン骨子（案）について

発 言 者	会 議 内 容
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次については、最初のバージョンの次のプランとわかるような名称の方向で、次の議事の中で確認する。</li> <li>・13 ページ第3章 観光まちづくりに向けた市民意向等について、マーケティングを活用した調査から概要を整理しているが、小平市の認知度のところだけ、全母数が 19,944 人になっていて、あとは 967 人になっているのは何故か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このプロジェクトでは複数のアンケートを実施しており、小平市の認知度については、全国的に大きな WEB 調査という形で行った項目で、母数が 19,944 人となっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WEB 調査で、全国的に 2 万人近くにアンケートを行って、その中で小平市に來たことがあるという人を抽出した 1,000 人近くを対象に行った項目などあるが、誰を対象にして聞いたのかというのが分からないと、この数字の捉え方が変わってくるので、下の部分に調査対象等を加筆してもらえると、誤解がなくなると思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の前提を注意書きとして加えていただければと思う。</li> </ul>

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの骨子案で、新しいアクションプランを新しい理念と目標のもとに組みかえて、第2次では提案していくという話であったが、そこに向けて今までやってきた50のプランについて、皆さんから意見をいただきたい。1つずつ確認していくが、あと4年間継続してやっていこうというものと、良かったのでもっと推進した方がいいのではないかとこのものや、未実施についてはこのままプランに残すのかということも含めて、意見をいただきたい。概ね実現できているというものについては、新しいプランには入れなくていいものもあるかもしれない。この検証は50のプランの振り分けにも関わるので、気付いたことを発言していただきたい。</li> <li>・プラン1 小平観光まちづくり連絡会の設置については、実現したということで削除。</li> <li>・プラン2 庁内観光業務の情報共有については事務局より説明をお願いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内観光業務の情報共有ということで、今まで小平には観光という意識がなかったので、観光について産業振興課に1つにまとめて発信するという形で統一を図った。これは継続した方がいいと考えている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン3 観光データの共有及び収集についてはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光データの発信ということで、市報やホームページ等について、庁内においては産業振興課、市内に向けては観光まちづくり協会が統一して行った。こちら継続がよろしいのではないかと考えている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続だが、もう少し力を入れた方がいい。特に各ホームページ、SNS等、市・協会それぞれのアプローチによる情報発信ができたこと、成果としては書いてあるが、前回の皆さんの自由意見からは、見たことがないという声があった。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の意見を伺い、小平市としては画期的なYouTubeのショート動画をアップした。ツイッターでは2万回位閲覧されている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン4 各種団体との連携強化についてはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内でイベントをする際、商工会や農協だけでなく、飲食業組合等に加盟していただくことが増えてきた。今までは1つのイベントでしか一緒でなかった団体も、他のイベントにも協力してもらうという形で各団体との連</li> </ul>

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	携を強化している。今後も垣根を越えていくと考えている。
委 員	・文章の書き方について、これは前の計画のものを使っていると思うが、新しい計画には、多様な組織との連携という言葉が入るといいと思った。
委員長	・10 年間やってきた中で、ここにもっと具体的な名称が増やせるかもしれない。
委 員	・もっと市民に寄った公共施設、委託施設が入ってくると、観光とも連携できると市民がやる気になりそうだった。
委 員	・10 年前にはなかった多摩観光推進協議会が設立されていて、今も連携しているが、そういった部分も広域連携として入れたらいいのではないかな。
委員長	・プラン 5 近隣自治体との連携強化についてはどうか。
事務局	・立川市、日野市、国分寺市、国立市、福生市、武蔵村山市とシェアサイクルを通じた連携が実施できるか協議し、10 月 1 日から 11 月 30 日までイベントを実施する。小平市を含め 7 市でシェアサイクルを利用し、アプリに登録されている観光地にチェックインすると、ポイントで 200 円のシェアサイクル無料クーポン券が付与され、全部周ると、最大で 60 枚のクーポンがもらえる。ポイント数に応じて市の特産品が当たるものに応募できる。
委員長	・今までこういうものはやれなかったが、10 年間の積み上げで今年実現するものということか。
事務局	・シェアサイクルは 7 市で使っている会社が全て同じなので、7 市内であればどこで返却しても良い。来年からは東村山市と東大和市も参加し 9 市で実施したいという話も出ている。
委員長	・成果のところに、多摩北部都市広域行政圏協議会、産業・観光振興専門委員会でアニメスタンプラリーを実施しているとあるが、これは毎年行っているのか。
事務局	・今年で 3 年目になる。10 月から開始され、各市のスポットでスタンプを集めると、各市の特産品がもらえるという形になっている。

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 5 近隣自治体との連携強化は継続とする。</li> <li>・プラン 6 観光まちづくりに関する人材の育成についてはどうか。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち巡りガイドを養成するために、半年間の講座を行っている。毎年 10 人に満たない程度の受講者で、ガイドとして実際活動するのは半分程度で、何年か経つと抜ける人もいるので、常に養成していく必要がある。年齢層の高い人が多く、体力的にきつくなったり、若い人を対象にすると参加に結び付かなかったり、ガイドとして活動する時間がないということが課題である。養成講座を通じて、小平の知らなかったことを理解できたという方もいるので、養成講座自体は続けて行くべき事業だと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館においても色々な講座を行っているが、毎年行っているのか。まち巡りガイド養成講座と公民館の講座との絡みはあるのか。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の講座に対して、ガイドが講義を行うことはある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち巡りガイドツアーは人気の取組か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても人気があり、募集をするとすぐに埋まってしまう。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続だと思うが、課題もあるということだったので、新しい計画に振り分けるときに、注目ポイントだと感じた。</li> <li>・プラン 7 観光関連ボランティア活動の推進について、担い手の高齢化や不足が課題として挙げられているが、どうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば灯りまつりのイベントに関して、当初は学生ボランティアが数十人単位でいたが、その後学生ボランティアは減少し、個人的なボランティアが増え、上手く回っているところもあれば、高齢化で出来ない所も出てきている状況もある。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人でできない会場は、小学校の青少年対策地区委員会に依頼し実施した。そういうことができない所は、核になる人間もいなければ、柔軟に動ける人もいないという状態で、どちらも不足している。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手について、単に高齢化が進んでいる、あるいは人が集まらないというだけでなく、イベントの核となるリーダー的存在の確保ができない。例えば学生ボランティアが来ても、何をすればいいのかで終わってしまう。</li> </ul>

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	<p>高齢のボランティアにしてもどう動けばいいのかで終わってしまう。そういったことを防ぐために関連ボランティア活動の推進という形で、核となるリーダー的人材の養成というものをここに加えた方がいいのかと。特にイベントの数は増えているし、イベントが多角化して、やる場所も増えているということなので、核となる人材の養成が進めば進むほど、小平市としても色々と出来ると考えている。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン6 とかなり関係があるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン6 はあくまでも小平を知ってもらって、説明してもらおうということなので、イベントを手伝ってもらおうということとは違う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン7 は、課題はあるが、観光まちづくりを推進する上では、非常に重要ということで、継続だがもう少し作戦を考える必要がある。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアに参加すると大学の単位がもらえるというのは可能なのか。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういうものを制度化している学校もあると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアというと、どうしても時間とお金に余裕がないと出来ないもので、そういった連携がうまくできないかと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ活動の一環として大学の学生が真剣に取り組んでいた期間があったが、担当の先生の退任などで関係性が薄くなってしまった。ただ、夏休みにボランティアをしたいと申し込む学生もいるので、学校に問い合わせをして、自治体や地域のイベントに参加して活動を行うと特典があるのか調べてみたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントが増えているので、イベントの楽しさを共有できるようなアプローチがあるといい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後にも出てくるが、小平市大学連携協議会があって、大学生たちが自主的に行っている活動を報告して交流する機会や、小平 NP0 セミナーというのがあり、「あすぴあ」や市民活動をしている中間機関に、夏休みに体験しに行くという試みが続いていて、学生たちは参加するチャンスや、活動するフィールドが少しずつ出来ている。</li> </ul>

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何年か前に受入れしたことがあって、大学生とやり取りすることがあった。ボランティアだと消耗されている感覚になってくると思うので、やったことを実績として就職活動にアピールするよう話をした。イベントが終わっても相談に乗ったりという関係性が生まれているので、受け入れて良かったと思っている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平市としては、主婦や学生の方にボランティアとして活動していただくと有難い。高齢の方は既に活動している。学生にイベントに関する良いアイデアをいただいたので、来年実行する予定である。そういった形で学生のモチベーションもあがる。お金がかからず、すぐにできるアイデアなので、就職の際にも有利になると思う。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平の主婦層は仕事の方向にシフトしているので難しい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の再就職という形で、主婦の方々に再就職を目指してもらっているが、動きが鈍い。一度辞めて、期間が空いているので自信がない。その自信を埋められる方法としてボランティア活動を使ってもらえたらと思う。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それはイコールではない。自分が社会に貢献した仕事として認められたら別かもしれない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の所に、「ボランティアスタッフの力は事業の成功や担い手の部分で大きな役割を持つ。ボランティアという名称ではあるが、多くの方がプロ顔負けの関わり方をしている。」と書かれているが、単なるお手伝いではなく、ここからプロが育っていくという、書き方が必要である。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアはただ働きをしてくれる人という認識を持っている人もいるので、報酬ではないが、何かしらの特典がつくようなことを検討しなければならない岐路に立っていると感じる。</li> <li>・まち巡りガイドに関しては、自分たちでコースを作りたいと、モチベーションが高いので参加者からの人気もあり、大変成功している例である。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢層を広げていけるといい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が入れば、歩きたいコースも違ってくると思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平市大学連携協議会の中で、いくつかの大学生たちが企画をして、うど</li> </ul>



### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
委員長	<p>んと彫刻というコアなイベントをやったことがある。やりたいという人たちをどうやって巻き込んでいくか、けん引していくかが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 8 観光案内所の設置についてはどうか。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく機能しているのかわからないが、こだいら観光まちづくり協会を案内所として登録している。もっと駅の近くに行った方がいいという意見があるが、家賃等の関連もある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは、実現はしているが、継続ということか。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平として観光案内所が出来たと大きな声で言えない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここにあるとは周知されていないかもしれない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットでいろいろな資料が取り寄せられるので、窓口まで行かなくてもという人はいるかもしれない。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅近や構内では無理か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこの駅がいいのか。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花小金井駅が人通りも多くいいのでは。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して模索していく。</li> <li>・プラン 9 観光案内板の設置についてはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公費として付けるものもあれば、ボランティアガイドが、用水に特化した看板を取り付けたりなど、いろいろな観光案内板を取り付けている。今後とも継続していきたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にも候補地があり、増やしていきたいということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・候補地はあるが、予算がないだけである。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の計画はあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平市の予算的な話だが、看板や施設整備については計画は特にない。毎</li> </ul>

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	年 8 月から 9 月にかけて、市長まであげて、それが認められるか、一件査定になるので、看板も取り付けられる場所が見つかれば、一件査定であげるが、今は取り付ける場所がない。要求すれば認められる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 9 は継続。</li> <li>・プラン 10 トイレや休憩所の案内についてはどうか。</li> </ul>
事務局	・マップにはトイレの案内を載せているが、地元の方か協会で付けているのか、所々にトイレ案内の看板がある。玉川上水沿いのトイレについては、看板の要望が多いので、そこには設置している。
委員長	・看板は足りているのか。
事務局	・足りていない。
委員長	・トイレや休憩所がないと、市内を散策できない人もいる。
事務局	・トイレを増やしてほしいという要望もあるが、トイレを設置するのに 1,500 万円かかり、増やすのは難しいので、現在あるトイレで何とか我慢していただきたい。
委員長	・休憩所等、民間のお店にお願いできないのか。
事務局	・市からはお願いできない。
委員長	・観光が盛んになるのはいいが、インフラも考えなければならない。
事務局	・福祉のまちづくり条例で、トイレは多目的トイレが設置の基準になっていて、多目的トイレは一時ニュースにもなり、作ってほしくないという反対運動もあり、更に設置が難しくなった。公園の周囲にお住いの方から反対が起こり、トイレを増やすことが出来ていない現状である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラン 10 は重要課題である。</li> <li>・プラン 11 鉄道駅からのウォーキングコースの PR についてはどうか。</li> </ul>
委 員	・今年の 8 月 31 日にウォーキングイベントが終了し、760 名の参加があった。前年は 1,500 名だったので、暑さで敬遠されてしまったかもしれな

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
委 員	<p>い。我々としてもブルーベリーに合わせて、8月を継続するのか、他の観光素材を発掘できる時期にするのか検討したいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各駅で学生との共催の数が増えていて、もし学生にお願いできるのであれば、年2回開催、紫陽花の頃と秋に開催してはと考えている。小平は協賛店が多く、もっといいものになるのではないかと思います。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果物となると暑い時期は難しいが、野菜で良ければ季節は問わない。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレについても、民間が書けば、民間の会社のトイレも提供と書けるので、小平のコースはトイレに困らないコースになっている。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平市や観光まちづくり協会と共催という形ではないが、定期的にウォーキングイベントを行い、7月5日に小平市から武蔵境までのコースで行った。引き続き定期的に行いたい。小平市と共催で、地域の資源をPRしながらやっていけると、我々のウォーキングに根強いファンがいるので良いと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も力を入れて取り組んでいくということで。</li> <li>・プラン 12 公共交通との連携強化にはどうか。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新小平駅の中2階は自由に使えるようにしている。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会で活用しており、丸ポストのパネルや、FC 東京と連携して、選手のパネルを置いて話題にもなった。仕掛けられることを行っている。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に「鉄道事業者との連携についての取組が充分できなかった」とあるが、どういうことか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にじバスの問題である。にじバスは駅から駅までではなく、駅から図書館等の施設までで、地域住民の足としてあるコミュニティバスなので、まちめぐり等の観光に使いたいものがあるが、鉄道事業者の方々と連携が出来ない。</li> <li>コミュニティタクシーについても、住宅地の中を走るの、鉄道事業者との連携が出来なかった。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業は継続していくべきものなのか。</li> </ul>

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	・公共交通の皆様とは今後とも良い関係を築いていければと考えている。
委員長	・鉄道とバスの接点、鉄道とタクシーの接点等、課題はまだまだある。
委 員	・小平の天然温泉や観光ポイントになりそうな所はすごくアクセスが悪い。鉄道で回れない部分をバスやタクシーを使って観光地をつなぐといいと思う。
事務局	・公共交通課に繋ぐ。
委員長	・プラン 13 観光ポータルサイトの作成は継続しないと成果が現れないので、継続とする。 ・プラン 14 SNS の活用についても継続とする。 ・プラン 15 パブリシティの強化についてはどうか。
事務局	・プレスリリース等、行政としてできることはやっていく。コロナが終息という形になって、各地でイベントが行われているので、どんどん発信していく。継続だが拡大していかなければならない継続だと考えている。
委員長	・プラン 16 映画撮影やアニメ舞台の誘致については未実施になっているが、どういう点で難しかったのか。
事務局	・成果および要因に「対応職員の確保、光熱費なども含めた徴収する費用、駐車場の使用可否など施設によって対応が異なる」という部分があって、統一的なロケ地としてのものを作っていないので、シティプロモーションという形で言うと、東村山市とか武蔵野市のように、ロケをする場合は1つの課が全て受け付けるという体制が、小平市の場合は取れていない。それだけの需要がなかった。小平市で撮影されるのは、単発のドラマしかない。アニメの聖地としても何もない。有名人の出身地でもないということで、ロケに来てくれない。コロナ禍で都外に出れなかったのも、近場の小平市ということで、コロナ禍の時は取材が多かったが、コロナが終息した今はほとんど来ない。PR するものがないというのが現状なので、市としては手詰まりの状態である。
委 員	・売り出すものがないのであれば、この項目は削除した方がいいのではないかな。ふるさと村はどうか。

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
事務局	・ いろいろ建物が混在していて、統一感がなく、街並みとして使えない。
委 員	・ 一橋大学等、大学の校内はどうか。
委員長	・ うちの大学も使われている。まだ発掘されていない所はあるかもしれない。
事務局	・ 大学等は、市に話が来るのではなく、直に大学に話が行ってしまう。市としては情報を共有したい。誘致というよりは情報の共有という形の方がいいかもしれない。
委員長	・ 魅力的な場所の情報を共有して PR していく方がいいかもしれない。
委 員	・ 私は、ここはすごく大事だと思っていて、映画撮影やアニメの舞台ということよりも、コロナ禍で経験したような情報番組等のロケで使われる方向がいいと思う。聖地になるわけではないが、民放番組で 5 分取り上げられれば、経済的費用に換算すると数百万、数千万になるので、情報番組に少しでも出た方がいい。事例としては熱海市が、人気は低下した中で、何でもいから番組に取り上げられた方がいいと、観光課の中でロケと情報番組の窓口を 2 つに分けて、AD さんいっちゃいの窓口と制作部さんいっちゃいの窓口がある。その結果番組に取り上げられて熱海市の人气が回復したので、映画やアニメの誘致よりも情報番組としてのコンテンツは小平市にもあると思うので、窓口を置くというのが重要なポイントだと思う。フィルムコミッションの窓口の置き方は 2 つに分かれていて、1 つは産業振興課等、行政の中に置くというケース、もう 1 つは観光協会に置いているケースがある。メリット・デメリットがあると思うが、そういったところを研究しつつ、情報番組に取り上げられるような、窓口機能を置くことをやった方がいいと思う。
委員長	・ プラン 16 のタイトルを変えた方がいいのでは。映画やアニメというよりもっと幅広くとらえた方がいいのでは。
委 員	・ 小平市は情報発信が苦手と言っているが、窓口を置けば、夕方のニュースやバラエティー番組に露出する機会が増えると思う。
事務局	・ プラン名を変更してもらえれば、非常にやりやすくなる。今でも身近な番組には、結構取り上げられている。

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
委員長	・プラン 17 観光まちづくり大使の任命についてはどうか。大使の任期はあるのか。どうやって選んでいるのか。
事務局	・任期はない。人数を爆発的に増やすこともない。小平市にゆかりのある、ある程度実績のある有名な方という概念で選出している。
委 員	・今の若い人にとっては、知らない人が多い。そもそもテレビを見ない。ニュースもバラエティーも SNS で見る。自分の興味があることが出てくるスマートフォンで完結してしまう。
事務局	・今の観光まちづくり大使 6 名は、スマートフォンに出てこないのか。
委 員	・ツイッターやトレンドに挙がっていれば、見るかもしれない。
委員長	・有名な人の物差しをどのように当ててるのか難しい。
事務局	・観光大使を市民にまず知ってもらうことから始めたい。村上さんはニュースキャスターをやっていたり、大林さんもケンミンショーに出演しているので、そこでアピールしてもらえればと思う。
委員長	・どんな人に観光大使になってもらい、どこで活躍してもらうか、もっとはっきりさせた方がいい。 ・プラン 18 テーマを意識した情報発信についてはどうか。
委 員	・観光協会が出来た当初は、総合的なガイドブックを作る予定だったが、分かりにくくなるので、テーマを分けたり、毎年作る基本的なガイドブックも、その年のテーマを決めて作成している。まち巡りをテーマにしたガイドブックはまち巡りガイドに編集にかかわっていただき、コンテンツを作ったりしている。
委員長	・マップも若い世代は、紙マップはあまり見ないのでは。
事務局	・紙媒体でマップを欲しいという人は非常に多い。日本全国から送ってほしいという要望が多い。
委 員	・紙マップを実際に手に取って見たことがあるが、完成度がすごく高いと思

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
委 員	いながらも、複数のガイドブックを持ちながら市内をまわってもらうのは大変だと思う。若い人たちにも見てもらえるような取り込み方はしているのか。
事務局	・ポータルサイトで見られるようになっている。
委 員	・そのこと自体を知らないなので、アピールが必要である。
委員長	・実際にマップをスマートフォンで見ると、画面が小さいので、使いやすくはない。スマートフォンでマップを見ながら歩くというのは実際あまりやっていないかもしれない。
事務局	・スマートフォンを見ながら歩くというのは危険なので、役所としては推奨していない。
委員長	・ピンポイントで行って、その情報が広がるというのが、若い人たちの歩き方だと思うので、工夫をしながら継続ということで。 ・プラン 18・プラン 19 についてはどうか。
事務局	・プラン 18 とプラン 19 は合体した方がいいかもしれない。
委員長	・プラン 18 とプラン 19 は合体する。 ・プラン 20 ご当地キャラクターの活用についてはどうか。
事務局	・ぶるべーのクラウドファンディングを立ち上げ、目標 100 万円のところ、78 万円まで来たということで、皆様からの協力をかなりいただいているところで、YouTube でも配信して、寄付してくださる方が増えた。またぶるべーのぬいぐるみを 2,000 円で販売している。他にも市のゆるキャラは 150 種類以上あるが、あまり知られていない。産業振興課としてはぶるべーとコダレンジャーは推進していきたい。
委員長	・残りのプラン 21 以降の事業については、次回の会議で検討するので、関心のあるところや、自分に関係のあるところは、事前に意見を事務局に出してもらいたい。 ・今出てきた意見は新しい計画に反映してもらえればと思う。 ・実施されているプランについては、新しい課題もあり、未実施のプランについては、タイトルを変えるという意見も出た。プラン 21 以降も未実施

### 3. アクションプラン 50 の振り返りについて

発 言 者	会 議 内 容
委員長	<p>のプランが出てくるので、事前に目を通していただければと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい計画のタイトルについて、第2次小平市観光まちづくり振興プランというタイトルで、案を作成していただきたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道駅からのウォーキングイベントやブルーベリーをテーマにしたまち歩きが観光ポイントとして重要だとわかった。「クアオルト健康ウォーキング」が全国的に開始されているが、東京ではまだどこも始めていない。クアオルト健康ウォーキングアワードというものが2023年に開催されるが、そこに登録して採用されれば、補助金も交付されるので、その活用も検討してもらいたい。玉川上水沿いなどの小平グリーンロードは歩くにも走るにも良い場所だと思うので、ウォーキングコースに加えて点在しているお店や、小平市が紹介したい観光資源を訪ねるコースを設定すると、都心から30分もかからない場所なので、毎週末小平に来ていただける。健康寿命を延ばそうという事業にすると、市民だけでなく、市外の方にも活用していただければと思う。</li> </ul>

### 4. 事務連絡

発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回委員会は、アクションプラン 50 の振り返りについて意見を頂戴し、10月30日（月）午前10時より市役所地下1階にて行う。</li> </ul>

議事録署

印

印